

三事研広報 NO.5

三重県公立小中学校事務研究会

平成21年3月9日

発行者 小林 和枝

編集責任者 小島 ちゆき

研究プロジェクトで学んだもの 東海事務研研究プロジェクト 竹尾照美 さん

東海事務研羽島大会が終わりました。全体研究会での研究プロジェクトからのメッセージは、みなさんに少しでも届いたでしょうか。

東海地区は、それぞれの県が、全国的に見ても先進的で行動的な研究を進めていること。その4県の研究は、アプローチの仕方は違っていても同じ方向「経営参画・力量向上の先に子どもたちの豊かな育ちの実現」をめざしていること。視点の違う事務職員の実践に学ぶことの大切さ。またそれが出来る、それぞれの組織の強さ、4県のネットワークの良さ。自分の仕事の延長線上に「子どもたちの笑顔」を見だし、学校全体を見渡して気づいたことを行動に移し、学校にちょっぴりの変化をおこすこと。福島大会と羽島大会に向けての活動の中でたくさんのことを学ばせてもらいました。

共同実施で、学校を離れることが多くなりましたが、新しい出会い・新しい発見を求めて、外の空気を吸うことも、季節の移り変わりを感じることもやっぱり必要だと、かけがえのない仲間を得て実感しました。今は「あなたに頼む」と言って送り出してくださった小林会長に感謝しています。

支部自慢 ～桑名支部～

桑名支部は、桑名市と木曾岬町からなっていて、共同実施は4つのグループで構成されています。担当制を進めているグループや2校がペアになって業務を進めているグループなど、それぞれが個性を出しながら工夫をこらしています。

支部の事務研も来年度の東海事務研松阪大会に向けて、就学援助をテーマに準備を進めています。

さて、桑名には、日本一やかましい石取祭や多度大社の上馬神事や流鏝馬など伝統のある行事がたくさんあります。

又、長島スパランドやジャズドリームなど若い人が集まるスポットもあり、新旧が混在する魅力のある街です。

一度、桑名にお越し下さい！！お土産はおいしい“しぐれ”を用意してお待ちしています！！

支部自慢 ～津支部～

10市町村が合併し、「新津市」となり3年目を迎えた津支部です。共同実施は全部で13グループありますが、連携をとりながら、取り組んでいます。

ところで津市は、北京オリンピック レスリング金メダリスト、吉田沙保里選手の出生地です。昨夏は、吉田選手から多くの感動をもらいました。

また今年度は、伊勢・津初代藩主 藤堂高虎が津に入府してから400年、記念の年にあたります。様々なイベントも行われ、津市の歴史や伝統、文化の魅力を発信し、元気な街づくりを進めています。こんな活気ある津市を盛り上げられるよう、私たち津支部もがんばっています！

平成21年度の予定

三重県公立小中学校事務研究会総会・第1回研修講座

平成21年5月14日(木) 男女共同参画センター
講師 名城大学大学院 主任教授 木岡一明氏

三重県公立小中学校事務研究会第2回研修講座

平成21年7月24日(金) 伊賀文化会館

全国公立小中学校事務研究会福岡大会

平成21年8月5日(水)～7日(金)

福岡国際会議場(福岡県福岡市)

三重県公立小中学校事務研究会第3回研修講座

平成21年10月9日(金) 男女共同参画センター
東海地区公立小中学校事務研究会 松阪大会

兼 三重県公立小中学校事務研究会大会

平成22年2月5日(金) 松阪市民文化会館等

全事研セミナー

平成22年2月26日(金)

今年度もあと少し...

気合を入れて、
ガンバロー！！！！



第40回東海地区公立小中学校事務研究大会 羽島大会

2月5日～6日に第40回東海地区公立小中学校事務研究大会が羽島市文化センター等、3会場で終了しました。第3分科会・第5分科会の三泗支部と熊野支部より報告・感想をいただきました。

三泗支部より

～四日市市立笹川中学校 川崎 進 さん～



三泗支部の学校納付金グループは「学校集金事務をとおしてめざす教育支援」をテーマに、学校集金事務や就学援助事務の担当者としていかにすれば「子どもたちの教育支援」につなげられるかについて研究を重ねました。

当日は東海地区の4県から156名、4県以外からは6名の合計161名の方に参加していただきました。参加者の皆様から活発なご発言をいただき、実りの多い分科会になったと思います。

具体的な内容としては、三重県教育文化会館による「学校納付金システム」の活用について、未納金の問題、就学保障、就学援助制度における課題、保護者負担の軽減に向けての課題などにつ

いて提案しました。

各県の方からは「保護者への説明責任を果たすため、年間の予算書を保護者に提示した上で月ごとの集金額を決定している。」「集金の取扱要領を作成して、そこに事務職員が関わっていく。」「事務職員がリーダーシップを発揮して、校内でコスト意識を定着させる努力が必要である。」などのご意見をいただきました。

また、助言者からは「公費と私費を合わせて考える学校予算の組み立てが保護者負担の軽減につながり、子どもたちの教育支援、就学支援へとつながっていく。」あるいは、「教育サービスの提供の中で学校という場において、この大会のテーマでもある『子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務』をめざしながら、適切な判断やアクションのできる事務職員が求められる時代になってきている。」との助言をいただきました。

今後は、この分科会で参加者の皆様からいただいたご意見、ご助言を研究、職務に結びつけていきたいと思ひます。

熊野支部より

～御浜町立尾呂志学園小学校 榎本美奈 さん～



11月の会場下見の際、実行委員会のかたから「2月のこの時期は寒くて、雪に見舞われることもあります。」と聞かされ、熊野の人間は「雪」「寒さ」といった言葉に弱いので、「車で行くななら四駆じゃないとあかんかな？」とか「防寒対策万全にしないと!」とかいろいろ考えましたが、蓋を開けてみればそんな心配はどこへやら、例年以上に暖かい陽気に恵まれましたが、「さすが日ごろの行いのよさ」とは誰も言わないのが熊野の人の奥ゆかしさ…。と、ふざけた前置きはこれくらいにして、熊野支部が東海大会で発表するのは実に17年振り、当時はまだ実務的なことについての研究がほとんどだったように思いますが、最近の研究テーマは共同実施、事務職員育成ビジョン等、事務職員の

在り方や事務職員が主体的に学校経営参画に関わっていく、といったものが多く、随分様変わりしたなあと改めて感じます。わたしたち熊野支部の研究テーマは「学校における危機管理と事務職員」ということで、震災が起きたとき事務職員としてどう行動すべきか、また、個人情報の取扱い等について、研究してきたことを発表しました。一人ひとりの災害や危機管理に対する意識の差があると、組織的にとりくむのは難しい、と助言者の方の言葉にもありましたが、参加者からの質問や活発な討議、というところまではなかなかいかず、わたしたちの思いが十分伝わったとは言いきれない部分もありましたが、助言者の講評の中での実例を挙げての危機管理への検証や、個人情報保護に関する生の体験談、予算的措置が十分でない中での災害対策などを通じて、学校における危機管理に対する事務職員としての役割や意識を深めることができたのではないかと思います。

分科会が始まる直前に若干のトラブルもありましたが、なんとか無事に発表を終えることができました。今後は今回研究したことを念頭において、日々の業務に生かしていきたいと考えています。